

発行責任者

橋本 健治

〒273-0047千葉県船橋市藤原1-31-22
TEL 047-337-9557



平成14年度 総会のご案内

関東浪速工業会、今年度の総会を左記の通り開催いたしますので、ご多忙中のことと思いますが、万障お繰り合わせの上ぜひご参集ください

日時 11月14日(木) 18時~21時
場所 グランドヒル市ヶ谷
TEL:3268-0111
新宿区市ヶ谷本村町4-1

●親睦会費 8,000円
(但し平成元年度以降卒業会員及び女性会員は4,000円)

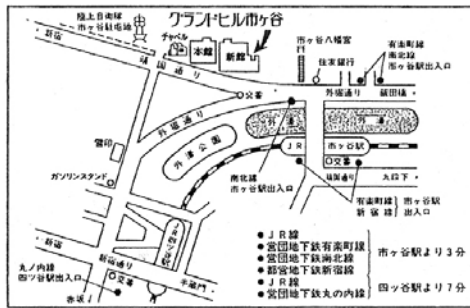
●同封の返信はがきに出欠を「記入の上必ず投函して下さい。」
☆講演会・元科学技術庁長官「A29」近江 巳記夫氏

2002.11.14



グランドヒル市ヶ谷

同級生等お誘い合わせの上多数のご参加をお待ちしております!



平成13年度 総会出席者名簿

来賓	上野 紋 理事長、竹田 剛 学校長 近江 巳記夫 元科学技術庁長官(A29) 西田 肥佐 氏	
機械科 13名	M10野島真四郎 M18小川勝宏 M20能澤正雄 M26玉城元市郎 M34石川芳夫 M41川本正治 清水一三雄 先生	M14松原 滋 M18片井振武 M26上田英雄 M26橋本健治 M39馬場 宏 M42前田範行
建築科 10名	A15松原 正 A27田中義也 A28田中義造 A37森 芳信 A47西口勝臣	A25西阪 勲 A28酒井 保 A28森田幸博 A38岩井浩一 A57信原利行
電気科 18名	E13笹本克巳 E28有井 章 E29大川和雄 E29小林孝栄 E30柴田義二 E30三田義治 E36赤尾仁史 E36馬江治喜 E46福田良明	E16戸部 暢 E28永井備三 E29岩崎亮平 E29平松 功 E30鳥居 勉 E30向田都夫 E36石垣英明 E36竹村繁幸 E48植田啓介
土木科 8名	C9 西谷通晴 C18北里直行 C24土谷 寛 C33松本信行	C18秋山勝美 C18大倉 馨 C33明見和彦 C42片桐幸三
工業化学科 3名	CI33西村一男 CI41谷口作寛	CI40菅家亘通

昨年の出席者は合計 52名+来賓4名でした



NTT DoCoMo R&D Center

見学会に参加して

〔E55〕植村 信夫

平成14年7月24日(水)に恒例となりました見学会が開催され、横須賀市にあります「NTTドコモ R&Dセンター」を見学しました。建物内に入り、待ち合わせに準備された場所が立派な会議室だったため、全員ちよと戸惑ってしまいました。見学の前に多少時間の余裕があったので、この会議室にて各自の自己紹介を行いました。見学においては、NTTドコモの組織、移動体通信の歴史、R&Dセンター内の設備等の話がありました。この施設等は、現在、2007年から2010年ころに実用化される第4世代の移動体通信の研究がされているとの事でした。その後、ガイドさんの案内でR&Dセンターの見学を行いました。

R&Dセンター内には、映像・音響の伝送時の劣化を評価するマルチメディア評価室、音響測定を行うための無音響室、多目的シールドルーム、無線システム実験室、電波暗室等のいろいろな測定を行う部屋があり、今回はマルチメディア評価室と無音響室を体験しました。無音響室では、音声が壁から反射されないため、音が「イン」する様な、ちよと不気味な感じがしました。ガイドさんの話では、この部屋に二

時間程度いると、精神状態に異常をきたすことがあるそうです。見学の途中に2010年の移動体通信についてのビデオを見せて頂きました。今後は、更なるデータ伝送の高速化を行う事により、スムーズな動画を送受が出来たり、大規模なデータの送受が短時間で可能となったり、また、リアルタイムに翻訳ができ、言葉の障壁が無くなる等の説明がありました。今後の技術発展がとて



参加者は13名でした
M28橋本会長、M16若狭由治、M26上田英雄、M26玉城元市郎、A28酒井保、A57信原利行、信原拓英、E12加藤義明、E29岩崎亮平、E29川村栄男、E36石垣英明、E36馬江治喜、E55植村信夫

急進に進む高齢化社会の到来に向けて、第二の人生如何に過ごすかが大きな課題となっております。会員皆様方の内にも、約半数以上の方々がすでに社会環境に上手に順応され、生きがいのある人生を過ごされておられる事と思えます。現役で活躍中の時代では、おそらく私も同様に、会社中心の生活環境で定年退職するまでは毎日自宅と会社との往復。付合も遊びにしても、会社関係、仕事仲間達が主で過ごしてまいりました。退職後、これらの生活環境が大きく変化し、これからの人生どのように自分に合った環境作りをしていくべきかを考えた時、まずは健康第一。心豊かに生きがいのある生活を営む為にも体が丈夫でなければと思ひ、早々に市の老人大学校(名前に多少の抵抗を感じながら)健康スポーツ科に応募。幸いにも一回目で入学する事が出来ました。男女を問わず、同世代の学習の場として、一般教養並びにスポーツ等を共に学び、一年間で修了でしたが、この間に、よき友人仲間達が出来、現在でもスポーツに旅行会合等に参加し楽しんでおり、ゲートボールに誘われ、入会、初めは年寄がするゲーム、まだまだ私には早いと思ひながら習う内、たちまち虜になつてしまい、現在ではほとんど毎日練習に試合にと飛び廻つておる次第です。

生涯学習
〔M28〕橋本 健治

急進に進む高齢化社会の到来に向けて、第二の人生如何に過ごすかが大きな課題となっております。会員皆様方の内にも、約半数以上の方々がすでに社会環境に上手に順応され、生きがいのある人生を過ごされておられる事と思えます。現役で活躍中の時代では、おそらく私も同様に、会社中心の生活環境で定年退職するまでは毎日自宅と会社との往復。付合も遊びにしても、会社関係、仕事仲間達が主で過ごしてまいりました。退職後、これらの生活環境が大きく変化し、これからの人生どのように自分に合った環境作りをしていくべきかを考えた時、まずは健康第一。心豊かに生きがいのある生活を営む為にも体が丈夫でなければと思ひ、早々に市の老人大学校(名前に多少の抵抗を感じながら)健康スポーツ科に応募。幸いにも一回目で入学する事が出来ました。男女を問わず、同世代の学習の場として、一般教養並びにスポーツ等を共に学び、一年間で修了でしたが、この間に、よき友人仲間達が出来、現在でもスポーツに旅行会合等に参加し楽しんでおり、ゲートボールに誘われ、入会、初めは年寄がするゲーム、まだまだ私には早いと思ひながら習う内、たちまち虜になつてしまい、現在ではほとんど毎日練習に試合にと飛び廻つておる次第です。

ゲートボールとはどんなスポーツかと問われたら、相手チームとの知恵比べ。あるいは頭のスポーツともいえます。三十分間に展開する攻防の作戦。的確に状況を判断し、ゲームの先を読んでベストの策をとる。知識と知恵を駆使した争い。単にボールをたいてゲートを通すだけの単純なゲームではなく、奥の深いスポーツと言えます。

チームの仲間達の七割の方は、県生涯高等学校のOB(クラブ活動)ゲートボール出身者で入学するよう勧められ、一般課程四科(福祉・生活・園芸・陶芸)二年間があり、特に園芸科は修了後専攻科に進めればあと二年、合計四年間学習する事が出来るので、そちらへ申し込みと言われ、今まで園芸の趣味もあまりなかったが、今からでも勉強するのも遅くはないだろうと思ひ、応募。残念ながら競争率が高く(陶芸で十四倍強、園芸で七倍、低い福祉でも四倍強)、昨年三回目でやっと合格。現在二年生として通学しております。千葉県では、「高齢者に生きがいを見つけてもらう」と、1975年に開校。高齢者が心豊かで生きがいのある生活環境作りを目的として、新しい知識や仲間作り、地域活動に役立つようにと、先輩OB達と一緒にボランティア活動として、月一、二回、公園の清掃並びに草花の手入れ管理等を行ないました。また、地域の方々と交流を深め、数多くの友人仲間達との出会いが生まれました。これから先も健康であるかぎり、ゲートボールを生涯のスポーツとして楽しむ、人間関係を大切にしてください。心豊かな余暇人生を過ごせれば幸いと思っております。

錯覚力

すばらしい錯覚力を発揮出来た三人
〔A28〕岡田 宏三

最近私は、錯覚力研究所なるものを発足しようと思面目に考えています。

多数の現代人は、あまりにも文明が発達し過ぎたことにより、文明依存症にかかっていると思われ、多量の情報を受信し過ぎた結果、情報依存症にかかっているとも思われます。文明や情報技術が発達すればする程、生活が豊かになっているにも関わらず、心が病んでいる事件が多くなり、政治や経済の深刻な腐敗、不安を毎日のように目にするようになったりしているのが現在の日本、いや世界です。そんなことを考えると、今後益々自然の摂理に従って生きる能力は弱くなっていくと同時に、心の病が大きくなっていくことでしょう。

今はまだ、ほとんどの人が「自分は明日死ぬわけではない」と考えて今日も生きています。そして同じ人が、それと同じような確率の宝くじやTOTOを、何億かの金額が当たりそうだと思うと買っています。面白い現象ですがこれは、積極的に生きようとする時に自然に出てくる「錯覚する力」では無からうかと私は考えるのです。そんな「錯覚力」が現代人、特に日本人に欠落してきていると思われ、向こうに何か素晴らしい世界が向こうに何か素晴らしい世界が向こうを見えなくなる。これが大切な「錯覚力」です。

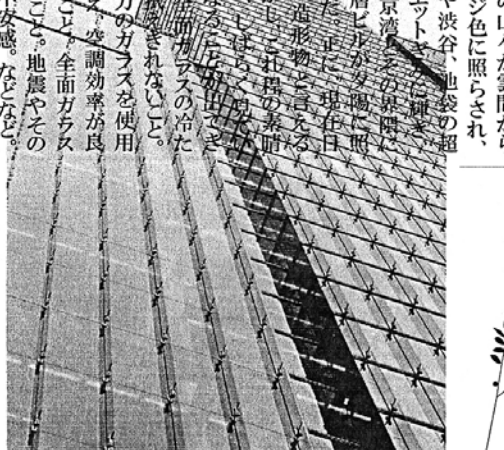
先日、A37卒・森氏と私と二人でA47卒・西口氏が現場監理の責任者をしている六本木一丁目地区再開発で日建設計担当の泉ガ-

デンとタワーを完全オープン寸前に見学をさせてもらいました。この地区は東京ドームの2倍近い敷地で、そのメインのタワーは、全面カーテンウォールガラス張り。40階層の高層ビルで、これ程完全なカーテンウォールは日本で初めてのもので、最先端の構造技術を使用した超未来感覚のビルです。最初に案内してもらったのは7階分の高さを一挙に登るエスカレーター、そして全面ガラス張りのエレベーターで30階まで。そして私達はそのオフィスフロアーに立った時、森氏と私は「おー」と声を出した程のパノラマがそこには開けていたのです。広大なオフィスフロアが四面、全て天井から床までガラス張り。目の前に開ける西側の風景は、箱根の山々が雲間から放射状にオレンジ色に照らされ、手前には新宿や渋谷、地元の超高層ビルがシルエットで並び、後ろの窓には東京湾とその界隈に乱立する超高層ビルが夕陽に照らされ輝いていた。現在日本本の頂点に立つ造形物とも言えるものでした。しかも、これらの素晴らしいビルで、エレベーターの乗ると少々冷たい。エレベーターのガラスがどうしてこんなに冷たいのか。太陽熱遮断能力のガラスを使用していると言え、空調効率が良いとは思えないほど、全面ガラスの清掃が大変なこと。地震やその他ガラス張りの不安感。などなど。そんな事を感じながら、今までの巨大な近代の再開発地区では無いビルが建ち、ここは近代施設のシンボルだとばかりに、クールなデザインの内サインを常識とされたものです。ところがなんとこの泉ガデンとタワーでは、クールな近代ビルに対し、素朴で楽しい真っ赤な案内サインを採用

したのです。この楽しいサインで先程のガラスに対する不安な問題の半分は消えてしまった気がします。これは、画期的な出来事です。こんな時こそ「錯覚力」の出番。ここは最先端のテクニクと、いつまでも変わることもない素朴な文化とがやとと接点を見つめ融合出来た歴史的な地点であり、我々浪速工業会が出会った三人は、そんな素晴らしい時代の節目に巡り合わせた幸せ者だ。そうだから良いことあるぞ、乾杯だ。と盃を交わし「錯覚力」旺盛に楽しい一時を過ごしました。健康のため皆さんもよとした出来事をオーバーに楽しんで「錯覚力」を旺盛にしてみても如何でしょう。ご報告まで。



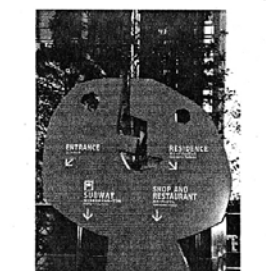
巨大なガラスの吹抜



泉タワー外観



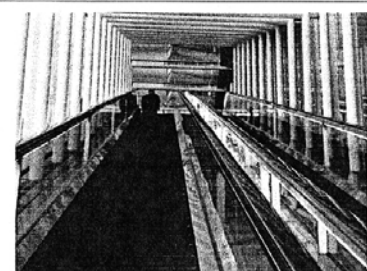
真っ赤な楽しいサインB



真っ赤な楽しいサインA



7Fからの眺望



7Fへのエスカレーター

訃報

E 7卒 小林 吾一氏
平成14年5月9日ご逝去

E 13卒 笹本 克巳氏
平成14年8月23日ご逝去

L 28卒 近藤 知義氏
平成14年8月22日ご逝去

ご冥福をお祈り申し上げます。

編集部より
〔A27〕田中瑛也氏より本号への寄稿を頂戴いたしました。紙面の都合により掲載は次号にさせていただきます。

平成14年度関東浪速工業会	各代表幹事のご紹介	芳利 行喜 孝次
機械科	M34 石川 松本	
建築科	A57 信原 松本	
土木科	C33 松本 馬江	
電気科	E36 馬江 柴田	
工業化学	CI34	

E-mail umaef@atglobal.net
原稿送先 馬江 治喜
FAX 045-841-8885

雲の秋
〔M18〕小川 玉泉

天井の節知りつくす昼寝覚
日のひかり弾き路肩のすべりひゆ
送り火の果てで傾く七日月
朝富士の象正しぬ雲の秋
自転車をついと躓しぬ秋あかね
たつぷりと雨吸ふ敵の貝割菜
天高し鉄道草の穂の先の

各料・同期のついで、趣味などの投稿をお待ちしています。FAXか電子メールでお送りください。
原稿送先 馬江 治喜
FAX 045-841-8885



編集後記：寄稿して頂いた原稿を部分的に意図する内容が変化しない範囲で少々変更させて頂きました。何分ご了承ください。編集担当YM&TN